

令和8年度

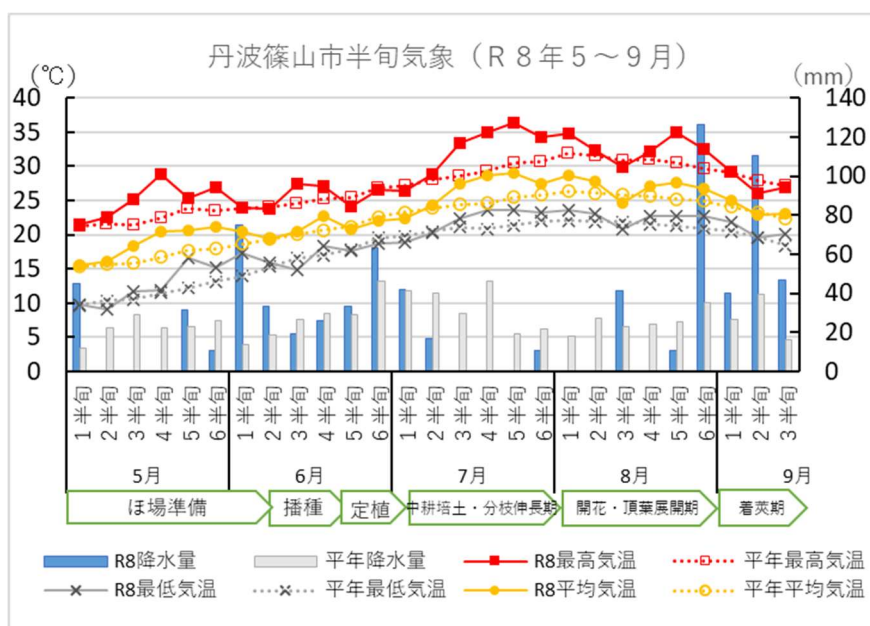
丹波篠山黒豆情報

第3号 令和8年9月28日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAITひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

※丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【気象】

- ・最高・平均・最低気温ともに8月は平年より高かったものの、9月に入ってから平年並みに推移しました。
- ・7月中旬から8月上旬まで降雨が少ない傾向でしたが、8月中旬以降の開花～着莢期には定期的な降雨がありました。



※ 丹波篠山市消防本部気象データ

【生育】（令和8年9月15日丹波篠山市定点調査結果より）

1株当たり着莢数（莢）	
※長さが1cm以上の莢を計数	
令和8年平均	92.5
平年(過去10カ年平均)	86.1
平年比	107%
令和7年(参考)	78.0

※平年値は、平成28年から令和7年の過去10年間の平均値

- ・6カ所の1株当たりの平均着莢数は92.5莢で、平年（過去10カ年平均）比107%と平年を上回っています。多い地域では117莢、少ない地域では74莢と、大きな差がみられます。

【病害虫】（令和8年9月15日丹波篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害	べと病	カメムシ類	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	ハダニ類
	株率(%)	株率(%)	虫数/株	被害株率(%)	頭/小葉	頭/小葉
令和8年	1.33	40.00	0.02	28.33	0.00	0.13
平年(過去10カ年平均)	5.00	9.17	0.03	7.33	0.09	0.33
平年比	27%	436%	63%	386%	0%	39%
参考値(令和7年)	2.00	2.50	0.03	1.67	0.00	0.00

- ・立枯性病害（茎疫病、白絹病、黒根腐病）の発生は定点ほ場において平年より少ない状況ですが、一部地域で多発しているため注意しましょう。
- ・べと病、ハスモンヨトウ・フタスジヒメハムシの被害が多く地域で見られます。
- ・莢を加害するカメムシ類が一部地域で発生しているため注意しましょう。

【今後の対策】

1 排水対策

- ・湿害や立枯性病害の発生を防止するため、長雨やゲリラ豪雨、台風等により畝間に水が溜まっている場合は、排水対策（排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐ等）に努めましょう。

2 立枯性病害（茎疫病、白絹病、黒根腐病）対策

- ・ほ場の排水対策を徹底し、立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、土をほ場内で払い落とさないようにしてほ場外に持ち出して処分しましょう。



3 害虫対策

- ・丹波篠山市内8カ所でハスモンヨトウのフェロモントラップを設置しています。今年は9月4日時点で過去3年のうち最多捕殺数となっており、ハスモンヨトウ被害株率の増加の原因と考えられます。現在は捕殺数が低下していますが、引き続き定期的な薬剤防除を実施してください。
- ・カメムシ類、フタスジヒメハムシなどは莢肥大期に莢を吸汁、食害し被害が大きくなるため、発生に注意し、薬剤防除を徹底してください。

